

## 第2学年 保健体育科学習指導案

日 時：平成28年12月16日（金）

場 所：第2学年(多目的室) 4校時

授業者：佐藤 博人

### 1 単 元 名 傷害の防止

#### 2 単元のねらい

(1) 自然災害や交通事故などによる傷害の発生要因やその防止対策、応急手当について関心を持ち、身近な課題の解決に取り組むことができる。 [健康安全への関心・意欲・態度]

(2) 自然災害や交通事故などによる傷害の防止について、自分の知識や経験、資料、仲間の意見や考えをもとにして、日常生活に当てはめたり、適切な対処法を選んだり、判断したりし、それらを表すことができる。 [健康安全についての思考・判断]

(3) 自然災害や交通事故を防ぐためには、防止対策と応急手当が必要であることを理解する。

[健康安全についての知識・理解]

#### 3 学習の基盤

本学級は、男子11名、女子4名、合計15名の生徒からなる。男子は積極的に物事を考える生徒が多い。ただ、やる気はあるものの落ち着いてじっくり考えをまとめたりすることが苦手な面もある。そこでDVDや新聞等を使用して、視覚に訴える資料を提示することで、的をしぼってやると、積極的に取り組み、考えをまとめやすくと考える。

生徒達は、交通事故に対する危機感はあまりもっておらず危険を予知できていないことが多い。また、最近の自然災害については、ニュースや新聞などである程度知ってはいるが、地震については体験したことも少なく身近なものとは感じてはいない。そこで、自分たちの国で起こる自然災害を考えさせ、アンケートを取りながら、自然災害に対する意識や備えを考えさせていきたい。今回は地震を想定した学習になるので、今日の学習を通して、じっくりと考えることや、様々な場面で自分が何をすべきかの状況を判断する力を身につけて欲しいと考えている。

世界で起きる地震の約20%以上が日本で発生している。つまり、いつでもどこでも地震が発生する可能性があり、それに伴って津波や土砂崩れ・火災などの二次災害で傷害が発生する可能性が高い。二次災害を防止するためには、日頃から災害が起こる前に安全の確保に備えておくなど、いろいろな知識を備えておくことが必要であることを理解させたい。

#### 4 本実践とキャリア教育

防災教育については小学校でも地震への対応・津波が起こった場合など学習はしてきている。中学校でも、1年生の時に放水訓練・炊き出し訓練・無線放送の仕方・ダンボールを使用しての生活空間作りなど実習を通して防災訓練等を行ってきている。ただ、実際に災害被害にあった生徒はおらず、自然災害の本当の怖さや苦しみを知らない生徒がほとんどである。今日の授業を通して、地震大国に住む日本人として日頃から防災に対する意識を高めておく必要があることと、本当に地震に合ったときに何が必要でどう対処すればよいかを考えさせる良い機会になればと考える。また、グループで意見を出し合うことにより、防災に対する意識の向上につなげようとする力を育てたい。

##### 【キャリア教育の視点】

・話し合いを通して課題や葛藤に積極的に取り組み、よりよい選択をする力をつける

(人間関係形成・社会形成の能力)

5 単元の評価規準

	評価規準に盛り込むべき事項	学習活動における評価規準（学習状況を判断する学びの姿と手立て）		
		十分満足できると判断される生徒の具体例（A）	おおむね満足できると判断される生徒の具体例（B）	支援を必要とする生徒への指導の手だて（C）
ア 健康・安全への関心・意欲・態度	傷害の防止について関心をもち、学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	◎中学生で多い事故やけがと起こる原因について、資料を参考に、仲間と共に考えを深め、発表している。	①中学生で多い事故やけがと起こる原因について、自らの課題として受け止めようとしている。	・傷害や事故の発生原因や背景などの資料をわかりやすく説明し、仲間と意見が出しやすくなるようにする。
		◎中学生の交通事故を身近な問題としてとらえ、事故の背景をまとめようとしている。	②中学生の交通事故を身近な問題としてとらえ、安全な生活を送るために積極的に考え、取り組もうとしている。	・身近に起こった交通事故や危機体験などから具体的な場面を想定させ、その原因や背景を考えさせる。
		◎自然災害について理解した上で対処の仕方について身近な自分の問題として考え、積極的に意見を出すことができる。	③自然災害について理解した上で対処の仕方について積極的に話し合い活動に参加することができる。	・身近な災害を取り上げ、他の人の考えを聞き、参考にするように助言する。
		◎応急手当の実習に進んで取り組み、仲間と協力しながら実習に取り組もうとしている。	④応急手当の実習に進んで取り組み、その意義や手順を身につけようとしている。	・傷病の程度を理解させ、初期の手だての重要性を実習を通して理解させる。
イ 健康・安全についての思考・判断	傷害の防止について、課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、科学的に考え、判断し、それらを表している。	◎事故発生の原因を分析して、その要因が人的あるいは環境にあることに気づき、まとめている。	①事故発生の原因を分析して、要因への対策を整理している。	・具体的な事故例をあげて、人的なのか、環境的なものかを考えさせる。
		◎中学生の交通事故の具体的な事例から、事故の原因をわかりやすく整理し、安全な行動を見つけたり、選択したりしている。	②中学生の交通事故の具体的な事例から原因を分析し、事故を防止するための安全な行動のしかたを整理している。	・交通事故の具体的な例を示し、状況を把握して安全な行動や方法を見付けさせる。
		◎自然災害時の被害やとるべき行動、安全への備えについて考えたり、選択したり、整理している。	③自然災害時にとるべき行動や安全への備えについて整理している。	・身近な生活と結びつけて考えられるように助言する。
		◎傷害の状況に応じた手当を考えたり、選択したりしている。	④傷害に応じた適切な応急手当の手順を整理している。	・少人数グループで行い、指導や支援にあたる。
ウ 健康・安全についての知識・理解	交通事故及び自然災害などによる傷害の発生要因やその防止対策、応急手当について、課題の解決に役立つ基礎的な事項及びそれらと生活とのかかわりを理解している。	◎それぞれの要因への対策を具体例をあげて、言ったり書き出したりしている。	①傷害の発生要因とそれらの相互の関わりについて、言ったり書き出したりしている。	・教科書のイラストを手がかりに考えさせる。
		◎交通事故の発生要因は人的、環境、車両などの要因が関わりあって起こることを知り、事故防止の対策を言ったり書き出したりしている。	②交通事故は、人的、車両、環境の要因が関わり合って起こることを言ったり、書き出したりしている。 ③交通事故を起こさないための行動について、言ったり書き出したりしている。	・身近に起こった交通事故や危機体験などから、何が原因であったのかを仲間と話し合わせ、今後の防止対策を考えさせる。
		◎自然災害に対して、ワークシートを通して、災害が行動や備えにより未然に防ぐことができることを気づくことができる。	④自然災害について、ワークシートを通して、災害が起こったときに、とるべき行動がわかる。 ⑤自然災害時に安全への備えについて整理している。	・災害の事例を示し、災害から命を守るために何が必要であるかヒントを与えたり、助言する。
		◎生活の中で起こりやすいけがについて、適切な応急手当の方法を知り、具体的に言ったり書き出したりしている。	⑥応急手当の大切さを身につける必要性や適切な手当が悪化防止になることを言ったり書き出したりしている。 ⑦応急手当の方法や手順を言ったり書き出したりしている	・実習で得た応急手当の方法を、教科書で再確認するよう助言する。

6 単元計画と評価計画（傷害の防止）全8時間

	1	2	3	4	5 (本時)	6	7	8
単元計画	交通事故や自然災害などによる傷害の発生要因	交通事故などによる傷害の防止		自然災害による傷害の防止		応急手当		
	人的要因や環境要因などの関わり	交通事故の現状とその原因	安全な行動、環境の改善による傷害の防止	自然災害による傷害と二次災害による傷害	自然災害への備えと傷害の防止	応急手当の意義	応急手当の方法と手順	心肺蘇生法の実習

時	指導内容とおもな学習活動	評価の観点			評価方法
		関心	思考	知識	
1	<p>ア 交通事故や自然災害などによる傷害の発生要因(1) ▽交通事故や自然災害などによる傷害は、人的要因や環境要因が原因となって発生することを理解する。</p> <p>1 中学生期における死亡原因を考える。 2 中学校でのケガは、いつ発生しているか考える。 3 傷害はどうして起きるのか。 ・事故の原因を考える。 ・事故の要因を考える。 4 傷害を防ぐにはどうすればよいのか。 ・危険予知の大切さを知る ・傷害を防ぐためにはどうすればよいのか考える。</p>			○	ノート  ワークシート
2	<p>イ 交通事故などによる傷害の防止(2・3) ▽中学生期に多く起こっている交通事故の現状とその原因について考え、明確にする。</p> <p>1 中学生の交通事故にはどんな特徴があるか。 ・自分達の生活や体験から中学生の交通事故にはどんな特徴があるかを考える。 2 交通事故はどんな事が原因で起こるのか。 ・事例を提示し、事例から発生原因を考える。 ・人的要因、環境要因、車両要因が密接に関係していることを理解する。 ・車両要因に着目し、事故防止のために気をつけなければならないことを理解する。 内輪差、死角、制動距離など</p>			○	ノート  ワークシート
3	<p>▽交通事故を防止するには、交通安全に対する人側の対策と環境側の対策が必要であることを考える。</p> <p>1 自転車運転でヒヤリ体験を話し合う。 2 危険を予知する能力を身につける。 ・事例の事故発生の可能性を考え、その予測した根拠を話し合う。 3 安全な交通環境づくり ・身近の生活において、工夫されている環境を話し合う。 ・交通事故防止について、自分達で課題を見つけ、課題学習として取り組む。</p>	○		○	観察

時	指導内容とおもな学習活動	評価の観点			評価方法
		関 心	思 考	知 識	
4	ウ 自然災害による傷害の防止(4・5) ▽自然災害は、生命や生活に大きな被害をもたらす危険があることを理解する。  1 自然災害にはどんなものがあるか考える。 水害、台風、地震など 2 自然災害において予想される被害や傷害にはどんなものがあるか考える。(過去の地震等のDVDを視聴) 3 自然災害における被害や傷害をグループで話し合い分類する。 ・災害発生時の災害と二次災害を理解する。			○	ノート  観察
5 本 時	▽自然災害による傷害を防止するためには、日ごろから災害時の安全に備えておくことを理解する。 ・過去の地震のDVDや新聞の切り抜きを参考にする。 1 予想される被害や傷害を思い返す。 ・前時の学習を振り返る。 2 地震における何を備えておけばよいのか考える。 ・自然災害の中でも地震による災害における行動を取り上げ、地震発生時の災害、二次災害における備えを考える。 ・地震による被害を最小限にとどめるためにはどうすればよいのか考える。 ・地震に対する心得をグループで話し合い発表する。		○	○	ノート  観察  ワークシート
6	エ 応急手当(6・7・8) ▽応急手当の意義や目的を知り、適切な手順や方法を理解する。  1 自分のケガや病気の時にどんな手当を受けたのか思い起こす。 2 応急手当の意義を理解する。 ・応急手当とは何なのか考え、その目的を話し合う。 ・応急手当により傷病の悪化防止や救命につながることを理解する。		○		ノート  ワークシート
7	▽日常生活の中で起こるけがの手当の基本を理解し、応急手当の方法を知る。①  1 倒れた人を発見したら何をしなければならないのかを考える。 ・自分がその場に遭遇したらどんな行動を取るのか、ブレインストーミングの手法を用いて発表する。 2 応急手当を行う手順を考える。 ・周囲の状況観察、傷病者の観察		○	○	ワークシート  観察
8	▽日常生活の中で起こるけがの手当の基本を理解し、応急手当の方法を知る。②  1 実習を通して応急手当の手順を理解する。 ・周囲の状況の観察から心肺蘇生法までを練習する。 ・AEDの操作についても説明を聞く。	○	○		ワークシート  実習の観察

## 7 本時の学習

### (1) 本時のねらい

- ① 自然災害(地震)による被害や傷害について、考えたり選択・整理したりできる。

[思考・判断]

- ② 自然災害による被害を最小限にとどめるために、その備えについて言ったり書いたりできる。

[知識・理解]

(2) 学習指導過程(5/8)

	学習内容及び学習活動	教師の支援及び指導上の留意点	評価 〔評価方法〕
導入 5分	<p>1 自然災害における被害や傷害について考える。</p> <p>発問1:過去に起こった自然災害はどんなものがあったかな?</p> <p>2 本時のめあてを確認する。</p> <p>自然災害(地震)への対応と災害の備えについて学習しよう。</p>	<p>・前時での学習を振り返らせ、アンケート結果を見せる。</p> <p>正確な言葉でなくても良い</p> <p>・学習課題を把握させ、授業の見通しを持たせる</p>	
展開 40分	<p>3 過去の大地震から、どのような被害が考えられるだろうか。</p> <p>発問2:地震で予想される被害は何かな?(ブレインストーミング)</p> <p>・過去の地震の映像を見たり、新聞を読んだりして被害を確認する。</p> <p>・予想される被害(○一次・※二次災害 ○倒壊・落下物、電話がつながりにくくなる、道路が通れない、電車が動かない、電気・ガス・水道が使用不可など ※津波、火災、液化化現象ストレスなど)</p> <p>4 地震が発生したとき、被害を最小限にとどめるために重要な事をまとめる。</p> <p>発問3:とるべき行動と情報収集の仕方、そして何を備えておくべきかまとめてみよう。(グループディスカッション)</p> <p>①とるべき行動 ②情報の収集方法 ③何を備えておくべきか</p> <p>(予想される回答) ・避難場所の確認、家族と連絡を取り合う、お年寄りや子供を守る、ラジオなどで正しい情報を得る、病院へ行く ・テレビ、ラジオ、スマホ、無線等 ・水、食料、懐中電灯、ラジオ、携帯電話、お金、ティッシュ、緊急連絡先の電話番号等</p> <p>5 「地震災害に対する心得・意識」をグループで考える。</p>	<p>・グループを作り、個人個人で予想される被害をワークシートに書きださせる。</p> <p><b>個に応じた支援の工夫</b> 他の人の意見を真似しても良いことを伝える。</p> <p>・各自で考えた予想される被害をグループで話し合い、一次・二次災害に分類し、分類した被害を発表させる。(班でボードに記入する。)</p> <p><b>個に応じた支援の工夫</b> 地震の映像をを提示し、身近な生活と結びつけるために、視覚的にとらえられるように支援する。</p> <p>・分類した被害を最小限にするため、とるべき行動・情報の収集方法・備えておくべきものを個人で考え、班でボードに記入させる。</p> <p>・わかりやすく記入させる</p> <p>・進行、記録の分担をさせる。</p> <p>・班のボードを一斉に黒板に掲示する。</p> <p>(持出し品チェック表を配付して確認させる。)</p> <p>・まとめたことを何班か発表させる。</p> <p>キーワード: <b>安全に避難</b>    <b>正確な情報</b>    <b>災害への備え</b></p> <p>・これらの行動や備えが二次災害や被害の拡大、傷害を防ぐカギとなることを理解させる。</p>	<p>発表 観察 ワークシート 〔思考・判断〕</p> <p>観察 発表 ワークシート 〔知識・理解〕</p>
整理 5分	<p>6. 本時の学習を振り返り、まとめをする。</p> <p>・これまでの学習で分かったことをワークシートにまとめる。</p>	<p>・授業でどんなことをやってきたか、まとめがしやすいように支援する。</p>	

### (3) 本時の評価

評価の観点	十分満足できると判断される生徒の具体例	おおむね満足できると判断される生徒の具体例	支援を必要とする生徒への指導の手だて
①健康・安全についての思考・判断	・自然災害時の被害やとるべき行動、安全への備えについて考えたり、選択したり、整理している。	・自然災害時にとるべき行動や安全への備えについて整理している。	・身近な生活と結びつけて考えられるように助言する。
②健康・安全についての知識・理解	・自然災害に対して、ワークシートを通して、災害が行動や備えにより、未然に防ぐことができることについて、気づくことができる。	・自然災害に対して、ワークシートを通して、災害が起こったときにとるべき行動がわかる。 ・自然災害時に安全への備えについて整理している。	・災害の事例を示し、災害から命を守るために何が必要であるかヒントを与えたり、助言したりする。

### (4) 授業研究の視点

- ・視覚に訴える映像や資料を用いたことは、生徒がじっくり思考・考察をする上で有効であったか。
- ・グループによる活動で話し合ったことは、生徒が自分の考えを深め、気づきを生み出すことにつながったか。